（様式

学力向上のための重点プラン【小学校】

新宿区立落合第六小学

■　学校の共通目標

授業作り	重点	友達との関わりの中で児童が自ら考え、表現できるような指導内容の工夫を図る。ＩＣＴ機器などの活用を通して、個別学習への深まりをめざす。	中間評価		最終評価	
環境作り		主体的に児童が学び合う場と機会の設定を行うとともに、特別支援教育・ユニバーサルデザイン・個別学習の視点を取り入れた環境作りを行う。				

■　学年の取組内容

学年	教科	学習状況の分析（10 月）	課　題（10 月）	改善のための取組（10 月）	最終評価（２月）
1	国語				
	算数				

学年	教科	学習状況の分析（４月）	課　題（４月）	改善のための取組（４月）	中間評価・追加する取組（10 月）	最終評価（２月）
2	国語	学　既習の漢字の活用についてまだ十分に身に付いていない状況である。 学　話し手の思いを受け止めながら聞こうという姿勢が十分にはに身に付いていない状況である。	・既習の漢字について、正確に書き取る力を伸ばす必要がある。 ・相手の言葉を手掛かりにしながら、その人がうまく言葉にできない思いや考えや意図をくみ取って聞く姿勢を養っていく必要がある。	・板書やノートづくりの中で、既習の漢字を活用するとともに、デジタルドリルやプリントなどで繰り返し練習を行い、習熟を図っていく。 ・話し合い活動の目的、内容、相手、方法や形態を明確にするとともに、児童が必要感を持てるようなテーマ設定にする。また、話し合い活動の中で友達に共感したり、共感してもらったりする経験を積むことで、話し手の思いを受け止めながら聞こうという姿勢を養っていく。		
	算数	学　繰り上がりのある足し算や、繰り下がりのある引き算において指を使って計算している児童もおり、学級内において、計算力に大きな差がある状況である。	・基本的な計算の技能について、速さと正確性を伸ばす必要がある。	・学習速度が速い児童にはデジタルドリルを有効活用し応用問題などに取り組ませる。また、個別指導を行う必要がある児童については、休み時間や放課後の時間を活用し、計算スキルの向上を図っていく。		
3	国語	調　令和３年度新宿区学力調査によると、「書くこと」は区の平均より 20 ポイント程度、「話すこと・聞くこと」は区の平均より 10 ポイント程度低い。 学　授業では、発言する児童に偏りが見られる。提出される課題やワークテストの状況を見ると、文字を書くことに対して苦手意識が強いと感じる。既習漢字や促音などについても誤りが見られ、まだ十分身に付いていない状況である。	・話に興味を持ち、自分と比べながら、話したり聞いたりする力を伸ばしていく必要がある。 ・自分の考えを書く力を伸ばしたり、文章を書くことへの抵抗を減らしたりしていく必要がある。 ・新出漢字の正確な書き取りが不十分である既習の漢字について、正確に書き取る力を伸ばす必要がある。	・話を聞く姿勢を常に意識させる。 ・スピーチや話し合いの前には、自分の考えを整理して一番伝えたいことは何か明確にすることや、話の構成を考える時間を設定する。 ・単元ごとに実施する漢字の小テストでは、間違った文字の直しを確実にさせる。タブレットのドリルパークを利用し、定着を図る。		
	算数	調　令和３年度新宿区学力定着度調査によると、「長さ・かさ」の問題で、区の目標値より低い数値となった。計算力も確実な定着には及んでいない 学授業にはどの児童も、意欲的に臨んでいて、新しい学年、学級での活動を前向きにとらえているように見取っている。	・計算の技能のより確実な定着が必要である。 ・自ら計画を立て、見通しをもって学習に取り組もうとする意欲と態度を育てる必要がある。 ・学習への集中力を高める必要がある。	・「測定」領域で具体的な捜査活動の充実や前年度までの学習のふりかえりからの単元導入などの工夫を図る。 ・タブレット端末による学習とともに、プリントやドリルによる学習の積み重ねを意図的に行っていく。		
4	国語	調令和３年度新宿区学力調査によると、漢字の書き取りが目標値より約３ポイント以上高い。 調話し手が伝えたいことの中心や登場人物の気持ちを捉えることが目標値より低い。	・引き続き、漢字も学習は復習を中心に含めて振り返りを行っていく必要がある。 ・一人ひとりに読解力をつけていくことが必要である。 ・５W１Hを意識し、自分の考えを分かりやすく示していく方法を知り、活用できるようにすることが必要である。 ・自分の関心ごとのある文章だけでなく、指定された長さや題材など、条件を付随させて文章を書く力を伸ばしていく必要がある。	・新出漢字の反復練習と、辞書を使って言葉を増やしていく。 ・接続詞や語尾などに着目したり、人物の行動や気持ちに線を引いたりするなど、重要な文章を見つける力をつける。 ・朝の会で 5W1H を意識させたスピーチをし、文章を構成する際や発表の際に、活用できるようにする。		

	算数	調令和３年度新宿区学力定着度調査によると、「図形」や「測定」領域で、区の平均値を下回っていた。 調令和３年度新宿区学力定着度調査によると主体的な態度について、区の平均値を下回っていた。	・たし算、引き算、かけ算の基礎的な計算にミスが見られるので、見直しすることを習慣付ける必要がある。 ・文章題において、聞かれている内容を読み取れていないことや単位を書き間違えることが多いので、振り返りの場を作り、定着を図っていく必要がある。	・より確実な習得の確認や、時間を空けて振り返り学習を行っていく。 ・文章問題には必ず取り組むとともに、デジタルドリル等を活用して類似問題を用意し、繰り返し多くの問題に取り組めるようにし、計算力を高める。 ・確かめ算等の活用をすすめ、解き間違いを減らす。		
5	国語	調令和３年度の新宿区学力定着度調査の結果では、正答率が６割から７割であった。「漢字の読み書き」では正答率の平均が目標値を約２ポイント、「物語の内容を読み取る」では、５ポイントも上回っていた。一方で、「書くこと」においては、課題がみられる。	・習った漢字をテストだけでなく、ノートなどで日常的に使えるようにしていく必要がある。 ・自分の考えを相手によりよく伝えるために、文章の構成や語彙力を増やしていく必要がある。	・漢字の反復練習や、読解問題への継続的な取り組みと、接続語や文末表現に着目して読むことを徹底して行っていく。 ・接続語や、効果的な慣用句の使い方など、多くの表現方法を示して、「書くこと」への苦手意識を払拭し、目的意識をもって書く習慣を身に付けさせていく。		
	算数	調令和３年度新宿区学力定着度調査によると、「数と計算」領域が全国平均を下回っていた。このことが、教科全体での到達度の低下を招いていると考える。 学意欲的に授業に臨む児童が少なくないが、主体的な態度も区の平均値を下回っていた。	・自分でやろうとする態度を大切に、各単元の見通しをガイダンスし、数学的活動を取り入れた指導を進めてきたが、学力の向上が今一つ図れない状況であるので、タブレット端末のデジタルドリルなどでの習熟を自ら行うようにする働きかけと学年全体のムードの高揚が必要である。	・自主的に学ぶ力を養う,解き方や表し方を自分で,（教科書等を見て）調べ、身に付けていく。 ・単元の評価テストで間違えた問題のふり返りと間違い直しを行うよう指示し、期末の確かめテストでの確認を行う。		
6	国語	調　「話すこと・聞くこと」の領域において、区平均よりも５ポイント高かった。日ごろから小集団での話し合い活動を進めてきた成果である。 学「書くこと」においては、課題がみられる。国語に限らず、他教科でも目的をもって書く習慣をしっかりと身に付けさせる必要がある。	・書くことに苦手意識を抱いている児童が多いので、苦手意識をなくしていく必要がある。 ・主語、述語、修飾語などの使い方を知り、文を構成する力を身に付ける必要がある。	・目的や意図に応じた、筋道の通った文章になっているか、他者と読み合うことで推敲していく力を養う。 ・短文を書く機会を増やすことで書くことの苦手意識を改善していく。 ・新出漢字の定着を図るためにデジタルドリル等を用いた繰り返し学習を行う。		
	算数	調令和３年度新宿区学力定着度調査が一昨年度より 2.1 ポイント下がった。特に「変化と関係」「データの活用」領域が課題であった。 学昨年度、意欲的に授業に臨む児童が多くなったが、年度が替わって、その様子が減退している。その単元の学習内容は理解できていると思われる児童たちの意欲も下降気味の様子が見られる。	・学習に前向きに取り組み、自らチャレンジしようとする意欲を高めていく必要がある。 ・共に学び合い高め合う気持ちの醸成と授業での助言や指示を受け入れる態勢を養っていく必要がある。 ・その単元の内容の理解で終わらず、つなげる、ひろげる学び方をしようとする態度を涵養していく必要がある。	・自分でやろうとする意欲を大切にした指導を心掛け、その子の頑張りを見取り認め励ます。 ・多くの児童に受け入れられる授業づくり、学習材の提案のための教材研究と人間関係（ラポール）の改善に努める。 ・日常生活、ニュース、新聞等社会での出来事に関連した学習へのアプローチを図る。		
音楽		学全学年、リズム奏や楽器の演奏、音楽づくりにおいて意欲的に取り組む様子がみられる。とりわけ楽器の演奏には大変興味を持っている。 学曲想をイメージしたり、思いを表現したりする技能はまだ不十分である。基本的な奏法を身に付け、互いの演奏を聴き合う力を付けることが課題である。	・思いに合った表現をするために必要な互いの楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付ける必要がある。 ・音程やリズムに気を付けて、友達の音をよく聴きながら合わせて演奏したり、伴奏を聴きながら演奏したりして音を合わせる楽しさを感じ取るようにする必要がある。	・一つのフレーズごとに交互に演奏したり、リレーのようにつなげて演奏したりするなど、自分の音や友達の音を聴きながら、拍を意識して演奏することができるようにする。 ・表現の工夫の実現のために、考えたことを、試したこと、助言をもらったこと、再度試したことの、試行の流れが可視化できるようワークシートを利用し思いや意図を膨らませるようにしていく。		
図工		学全学年、造形活動を行うことが好きで、意欲的に取り組もうとする様子が見られる。表現や鑑賞の活動に前向きに取り組み、よく考え素直に表現する力がついている子が多い。 学表現することは好きだが、材料や場の違いを味わいながら表現を深めていくといった、追求する活動には結び付きにくい。また、手先や体全体を使っての活動、材料や用具の良さを活かして発想を広げる活動が、今後の課題と考える。	・材料や場、友達とかかわる中で、ものづくりの楽しさを味わう。また、表現することの良さや価値を見つけ認め合えるような力を、活動を繰り返す中で身につけていく必要がある。 ・みんなでつくる難しさや協力する素晴らしさを味わう中で、「共生」できるよう互いに認めあえる児童を育成したり、互いの良さや違いに気付いたりできるような場面指導を行う必要がある。	・１年を通し、児童の実態に合わせ「感じる－考える－関わる－表す」という流れが何度もスパイラル状に続いていくような題材を検討し、テーマ・材料・場を厳選し授業を行う。 ・「ねらい」の明確化と言葉による「振り返り」を毎授業で取り組む。題材ごとに、考えたこと、試したこと、うまくいったことなどをはっきりさせ、習得したことが積み重なっていけるよう意識し学力の向上を行う。		
特支						

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況　　学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト、デジタルドリル等から見える学習の状況　　※分量は２ページ以上となってもよい。

コメントの追加 [八長　康晴1]: 意欲的に授業に臨むことができている。は、良い所として、そのまま記述してください。
意欲的に学習に臨むことが、そのままイコール、主体的に学習に取り組んでいるとはなりませんので、分析を再考してください。